

見知らぬ中学生の皆さんに

宇治中学校での戦争体験講座に招かれて

高林 實結樹

1. はじめに	2
2. 食糧不足	2
3. 歴史を踏まえて	2
4. 10年に一度外征 戦争	2
余談	3
5. 食料や資源の篡奪	4
6. 軍国少女	5
7. 中国少女の手紙	5
8. 授業は農業・軍事教練	6
9. 教科書が足りない	6
10. 空襲警報頻発	7
11. 家屋疎開	7
12. コオロギ	7
13. 南洋の外米	8
14. 食料難 お茶を飲まない工夫	8
15. 弁当泥棒・下駄	8
16. 徹底抗戦と偽善教育	8
17. 敗戦の受け止め方 贖罪	9
18. 初登校 女の奴隷	9
19. 校長訓辞	9
20. 唾棄すべき教師と思った	9
21. 敗戦の心準備がなかった教育界	10
22. 敗戦で豹変した学校教育	10
23. 退学を決心	10
24. 戦時中の密かな楽しみ	11
25. 戦争は嫉妬・憎悪の極致	11
26. 平和のための礎は？ 勇気！	11
27. 平和憲法を自分で考える力を	12
参考資料	12

1. はじめに

皆さん、おはようございます。皆さんは、私を始めて見て、どう思われましたか？
小さいお婆さん～、と思ったでしょ。

2. 食糧不足

私の身長が低いのは、戦争中に食べ物が無かったからです。同窓会に行ったら、皆がおなじぐらいの背の高さでした。小学生の時に背の高かった子も、あまり伸びていません。戦争は、このように子供の体格に影響します。

皆さんは、自分が生まれる前の出来事は、遠い昔のことと思いませんか？ 私が中学生ぐらいの頃は、日清(にっしん)戦争や日露戦争は大昔のこと、絵本の中の話のように思っていました。

3. 歴史を踏まえて

ですが、それは考えが浅い子どもの視点です。わずか4～50年前のことだったのでした。中学生の頃は、それほど自分主体でしか考えることができない、つまり子どもの視野でしか見えていなかったと言うことです。考える力を、年々、一人ずつが身につけて成長して行かれますから、心配はありませんよ。

皆さんは、だから子どもと大人の間、大人の視野をこれから身につけて世界を広げていく、つまり、1人の人間として、一生の人格の基礎が出来る大事な時期に、今おられるのです。

誰でも、国や世界の情勢と無関係ではありません。日本人として生きていくからには、今から自分で考える力をつけて、国の歩みを振り返り、その基盤に立って将来の理想を考えてみる。日本の国はどのような流れで今があるのか、それが国の歴史ですね。どのような国であってほしいか、これは皆さんが作っていかれる将来像。皆さんはそういう国の将来像を、歴史を踏まえて考える事ができる人になってください。それが小学校・女学校と軍国教育をもろに受けた、私からのお願いです。

戦争と平和という言葉を知っていますね。どちらが良いと思いますか？ 戦争は人間同士が殺しあう。平和は仲良くする。平和が良いに決まっていますね。

4. 10年に一度外征 戦争

ところが日本は神武天皇(初代の天皇、今は125代目)の最初から戦争ばかり。平和だったのは平安時代の前半、源平時代になるまでです。江戸時代は平和と言われてはいるが、昔のお殿様は“お国替え”とか幕府の命令で、突然遠隔辺鄙(へんぴ)な土地に移住させられて、絶対服従、ずっと武力支配の国でした。徳川幕府が大政奉還(たいせいほうかん)と言って、日本の国の統治権を天皇に返還しても、平安な時

代の平和な国には戻りませんでした。明治維新の後も、ずっと戦争は続いて起きました。歴史で教わりましたか？ 誰も習って居ないはずです。目隠し教育が行われて居るからです。明治時代から戦争がずっと何度も、10年に一度ぐらいの割合で外征していたから、負け戦とか、外国からのブーイングとか、国民に知らせるのがとても厄介で、歴史の教科書に載せることが出来なかったのです。

余談

ここで、徳川幕府の大政奉還という言葉に注意深く、考えて覚えてください。政治の権力、つまり国を統治する権利を天皇に返す、という意味です。皆さんの曾祖父・曾祖母の90歳以上ぐらいの年齢の日本人みな、この言葉の意味に疑問をもちませんでした。それは、神代と言われた昔から、天照大神(あまてらすおおみかみ)というお母さんになる神様から、1500年という期限付きで、祝福と共に頂いた日本の国を統治する権利が、代々の天皇にあるという言い伝えを、皆が信じて疑わなかった、それが1000年以上、2000年は続いた、と言うのが日本の国の成り立ちだ、と言うことです。

代々の天皇が、善政を敷かれるから、争いは無いはずですが、しかし実際は、いざこざが何度もありましたし、天皇の血筋に危機があっても絶えませんでした。祝福があったからです。

こういう考えを“皇国史観(こうこくしかん)”と言います。これも、覚えておいてください。どんなに威張って強い武将でも、錦の御旗(みはた)と称する、太陽すなわち天照大神の旗を掲げると、矢を向けることは誰も出来ないのです。だから徳川幕府も降参引退したのです。そんなに簡単ではなかったけれど、大まかに言うと、こういうことです。

そういう国の成り立ちが日本人の精神構造でした。奈良時代・平安時代・北畠親房・本居宣長・山崎闇斎等々の学者が皆そろって神代からの言い伝えを国の成り立ちとして、信じています。神様の子孫という、おとぎ話のような伝説は、科学ではなくて祖先からの言い伝え、「国学(こくがく)」親の教えを大事に守ってきた国なのです。

だからアメリカのような強い大きな国と戦争する、と天皇が言われたら、皆が「ハイ」と従う。「戦争に負けた、ポツダム宣言を受諾する、辛抱してこれからは復興に頑張ってくれ」といわれたら、「ハイ」と皆がいう国が、日本なのです。

ですから昭和20年8月15日正午に天皇が、敗戦を告げられたラジオの玉音(ぎょくおん)放送を、全国の人が一心に聞いて、距離が近い人は、東京千代田区の宮城前の広場に、一般の国民なのに、自分の意志で出かけて行って、地面に正座して泣いて、なかには切腹した人も出るほど純情な心で天皇を心の柱として、従うのでした。尤も徳川時代以前は、義務教育は無かったので、国民全員の常識ではなくて、どちらかと言うと、学問ができる恵まれた階層の人々の知識であったわけです。明治以後は義務教育がはじまり、天皇統治が全国民の常識となり、学校行事として氏神様(うじが

みさま)の神社参拝が毎月、強制的に行われていました。昭和20年の敗戦後の民主主義導入以後は、大詔奉戴日(たいしょうほうたいび)と言って、毎月の学校の氏神様を拝みに行くような宗教行事は、学校行事からは無くなっています。

国の大きな流れをひと口で言うと、以上ようになります。民主主義とは、大きな違いですね。だから“ひずみ”が出てきます。以上の流れ、国の歴史の根本を知っていたら、皆さんは大人になっても「ひずみ」の理由が目に見るようにわかって、国の形が理解できるようになります。期限付きという母神様の祝福が、意味深長です。

5. 食料や資源の篡奪(さんだつ)

明治維新から後、昭和20年までの78年の間に、日本は8回も外国に出兵、つまり戦争のために海を渡って、出かけて行きました。海を越えて外国に出兵とは、侵略戦争とみなされる行動。それが、およそ10年に一度の頻度(ひんど)ですね。

1868年～1869年	1	戊辰戦争 (内戦・北海道まで)	慶応4年～明治2年
1877年	2	西南戦争 (内戦・鹿児島～熊本)	明治10年
1894年～1895年	3	日清戦争	明治27・28年
1904年～1905年	4	日露戦争	明治37・38年
1914年～1918年	5	第一次世界大戦	大正3年～大正7年
1918年	6	●シベリア出兵	大正7年
1930年～	7	●満州事変	昭和5年
1937年～	8	支那(しな)事変	昭和12年
1939年	9	●ノモンハン事件	昭和14年
1941年～1945年	10	大東亜戦争	昭和16年

●印の戦争は、子供向け絵本での国民教育が無く、私は知らずに育ちました。

今は平成29年ですね。その前は、昭和。昭和は64年までですね。私は昭和6年、1931年の生まれです。今は85歳半です。

うまれる前の年に満州事変という名前の戦争が始まっていて、女学校、今でいえば中学の2年生になるまで、ずーっとぶっ続きで戦争が続いていました。しかし外地に日本軍が出かけて行っての戦争でした。敵から飛行機で攻撃をうけるとかは無く、外国へ日本から戦争に行くばかり、侵略ですよ。

外征は勝ったり負けたり、その結果として日本は権益を得たり、インドやフィリピンや、その他西洋諸国の植民地だった東洋の諸国が独立を果たして、日本の戦争のおかげと言ってくださることがありますが、それで喜ぶ以上に、いっぱい迷惑をかけたことも大きな事実です。片方だけを見ていると歪みますね。朝鮮半島から地続きの中国

大陸、南洋諸島でも食料や資源の篡奪(さんだつ)だけでなく、村中無差別の殲滅(せんめつ)とか、聞くも恐ろしい加害行動をしたので、多くの人々から恨まれている事実があります。これを、私は生まれてもない時だと言って、知らん顔はできない日本であることを、聞きたくなくても、辛くても、日本の国がそうしてきたことを、皆さんも歴史の事実だとして知っておいてください。知ることはとても大事です。アメリカのオバマ大統領が広島に来たことを、アメリカの中学生も知っていると思います。知ったうえで、仲良くなるのが大事だと思います。

日本の戦争は昭和20年以後はありません。最後の戦争では、広島や長崎に原爆が落とされ、日本中の町は焼け野原。外地からの苦しい引き揚げ。人々は大変な苦しみを経て、負け戦で明治以来の戦争時代は終わりました。負け戦は敗戦と言います。

その昭和20年に私は、皆さんと同じ、中学で言えば2年生でした。

皆さんは勉強は好きですか？ 気張って勉強をしていますか？ 皆さんは国の方針で民主主義を習っておられると思います。私は戦争中だったので、国の方針で軍国主義の教育を受けました。

6. 軍国少女

ですから私は軍国少女だったのですよ。皆さんは大人になったら、何になりたいって、夢を持っていますか？ 軍国少女の私の夢は、従軍看護婦になって、外地に派遣されて、駐屯所で匪賊(ひぞく)に襲われて、「たどん」のような丸い、真っ黒い手投げ弾で戦って戦死して、靖国神社に祀(まつ)られて、天皇陛下から拝んで貰うのが夢でした。

本気でそのように思っていました。皆さんとは世界が違いますよね。私が学んだのは、上の人の命令には絶対服従することでした。自分の考えは持つてはいけなかった。

7. 中国少女の手紙

京都市内のデパート、大丸百貨店で戦利品の展覧を見たのは6年生のときです。敵国中国の同じ小学6年生の慰問文、中国兵にあてた激励感謝の手紙を読んで、カルチャーショックを受けて、頭がマッシュロになり、日本の国策を嘘ではないかと疑うようになった恐ろしさ！ 漢字ばかりの手紙でした。その字が、大人びてとても綺麗でびっくり、一目で敬服しました。

「東洋鬼(トンヤンキー・日本兵)をやっつけて、平和を取り戻すためにガンバってください」

と翻訳文が添えてありました。私が学校で書かされていた慰問文も全く同じの裏返しで、私が書いた慰問文は、

「中国の民間人を搾取(さくしゅ)する悪い中国の兵隊をやっつけて、中国に平和が訪れるように、ガンバってください」

と書いていたのです。当然中国の少女から、感謝されていると信じ込んでいました。同じことが裏返しで書いてある、日本のことを憎んでいる。立ちすくみましたね。学校の先生が教えてくださった戦争・聖戦(せいせん)の目的は事実と違うのか？ 祖国日本を信じるができなくなった軍国少女。どう考えたら良いのか？ 親にも先生にも言えない秘密を抱えて孤独でした。

8. 授業は農業・軍事教練

今でいえば中学校、京都府立嵯峨野高等女学校に進んで、学校の勉強が満足にあったのは1年生の時だけでした。2年生になると講堂は軍需工場になり、内部を覗くことも禁止でした。2年生になったばかりの4月、職員室の前の廊下に張り出された授業計画時間表は、午前の4時間が「ノウ、ノウ、ノウ、ノウ」でしたよ。ノウとは、農業の農で、運動場の開墾、畑仕事、学有林と言って、清滝の山まで行進で歩いて行き、木の伐採、枝を払った皮つきの丸太を一本ずつ担いで学校まで持ち帰るのです。後日は植林です。廣澤の池の下には学校の田んぼもありました。田植えの前には、草抜きに行きました。

体操の時間はトイレの汲み取りや、アメリカ兵を殴り殺す軍事教練。竹槍さえも物資不足で学校には無く、私のクラスの武器は、畑を耕す平鍬や三つ叉の鍬でした。

それを振りかぶって対面するアメリカ軍の大男を殴り殺せと、体育の先生が授業で命令されるのです。生徒ながら、おなかの中では殺せますか、鍬で？ 本気ですかと密かに思いました。

口には出せません。先生を批判したら非国民です。上の人や国の方針を批判したら、特高警察に捕まって牢屋で拷問、殺されたりするような時代でした。これは嘘ではありませんよ。学校の近くの軍需工場に空襲で爆弾が落とされた時、私は授業中でしたが、竹藪の中の防空壕に飛び込んだ子が、泣きながら「戦争はイヤ」と叫んだら、近くにいた上級生がとびかかって口を押えて「言うたらあかん、捕まるよ」と言ったら、たちまち口をつぐんだ、という話も、近ごろ本人から聞いた話です。

9. 教科書が足りない

1年生の時は教科書がありました。2年生になる昭和20年4月では、50人クラスの半分程度しか教科書がないので、互いに借りて手書きでノートに写本しました。

私はクラスでも父が自分の勉強の為に大学ノートの予備を持っていたので、写本用に父からのもらい下げがあつて幸せでしたが、家に大学ノートの予備が無い子は写本も出来なくて、気の毒でした。勉学意欲なんて、持ちようも無く、空襲のサイレンに

怯え、学校の近くの三菱の軍需工場に爆弾が落ちた時は、二階の教室から、死にもぐるいで階段をひしめき合って我先にと逃げました。落ちついて皆が教室に戻った時の先生の、苦虫をかみつぶしたような顔を覚えています。

日ごとに空襲警報を告げるサイレンの回数が増え、講堂は前にも言ったように軍需工場になり、上級生が白鉢巻きで軍用飛行機の木製プロペラを削っていて、見てはならぬと厳しく言われて、何やら得体の知れない恐怖を感じる学校となっていきました。のちに知ったのですが、木製の飛行機には名前があって、「秋水1号」と言い、1万メートルを3分で駆け上がって、敵機B29の下から体当たりをするのだそうです。

10. 空襲警報頻発(ひんぱつ)

学業は停止となり、自宅待機で毎日が日曜状態になりました。小学校は学童疎開が始まりました。疎開に参加するのは自由でして、私の家では父が「空襲で死ぬなら家族みんな一緒に、」と言って妹も弟も学童疎開には参加しませんでした。

京都市の東山馬町の京都女子校の寮の近くに爆弾が落ちたそうな、という噂だけで、箆口令(かんこうれい)が敷かれて、死者があったかどうか、何も秘密で分かりませんでした。新聞はタブロイド判で、真相は報道されませんでした。西陣に爆弾が落ちたその時間は母と私、妹、弟の4人が一緒に部屋にいましたが、スゴイ音がした瞬間、弟が母の胸に飛びついた素早さに感心しました。私は恐怖に凍ってしまって、母にすがりつくような智恵も湧きませんでした。

11. 家屋疎開

京都の町は家屋疎開で住む家がなくなった親戚を、母屋に迎えて同居。私たち家族6人は、板の間の離れに全部の荷物を運びいれて、食料不足で何時もおなかを空かせていました。

家屋疎開とは、空襲で焼夷弾を被弾した場合、町中が延焼で丸焼けになる被害を食い止めるために、強制的に家屋を引き倒して道幅を広げるのです。大阪が大空襲を受けた後の家屋疎開は、小学校の講堂を、大阪からの大事な物資とかを預かる倉庫にしたため、周囲の家屋を綱で引っ張り倒すことも言いました。今の京都市内で、堀川通や、五条通が広い道になったのは、焼夷弾攻撃での延焼を避けるための家屋疎開の名残です。

12. コオロギ

学校の行事で、畑にイナゴは居なかったから、生徒全員がコオロギを見つけ次第掴んで、ハンカチに包んで、料理教室の大鍋に入れて、先生が煮てくださって、講堂の床に全校生徒が並んで正座してコオロギだけを給食として食べさせられました。虫

かごに入れて、鳴き声を楽しんでいた友達のようなコオロギを、食べるなんて胸がつまって、できませんでした。

コオロギにハンカチを食い破られて泣きそうでした。

13. 南洋の外米

戦争が勝っていた間は、南方からの「外米(がいまい)」の配給がありました。南方は年に2度も3度も稲が稔ると聞きましたが、実は現地の人々の食糧を奪っていて、現地の人はやせ細っていたと、漫画の本「目で見ると時局雑誌」を父が買ってきて、私たちに現実を見せてくれていました。南洋の島は学校がなくて、日本兵が日本語教育をしている絵では、先生が「ヨカバッテン」と九州弁を教えている、窓枠に飛びつくように島の子供が授業風景を覗いている絵でした。子供たちが、皆、骸骨のようなガリガリで、この人たちの米を奪って、外米は臭いなんて、不平を言いながら食べているのかと思って、罪悪感を募らせたものです。南洋の貿易会社の関係者の子供は、ゴムで作った靴を履いていて、羨ましく見ていました。

14. 食糧難 お茶を飲まない工夫

小学校の6年生頃からは食料不足でお米の配給も途切れがち。満州の倉庫の中のネズミのおしっこのような臭い(くさい)脱脂大豆やトウモロコシの粉碎したもの。高粱(こうりゃん)などの代用食を、匂いを嗅(か)がないように、目を瞑(つむ)って丸呑みしようとガンバツても臭(くさ)くて食べられませんでした。お昼に教室でお弁当を食べたあと、皆はお茶を飲まないで、口の中の最後のひと口のご飯を舌の上に載せていました。食べ物の感触を少しでも長い時間をと味わっていたのです。大きなお屋敷のお嬢さんが、食べ物を口の中に残す方法を教えてくれたので、お屋敷のお嬢さんの家でも食べ物がないのだなど、親近感を持ちました。だから私は早くから大臼歯が虫歯になって、今も困っています。

15. 弁当泥棒・下駄しかない・下駄屋も閉店

小学校では弁当泥棒が大流行でした。

明治33年から児童の体格検査が行われ、順調に平均値が毎年伸びていたところ、昭和22年には、平均身長が8センチも低くなったという統計があります。着るものも無い。履(は)く運動靴も無い。下駄で登下校。遠足もです。

下駄がすり減ったら代わりが売ってないので、下駄を脇に抱えて、裸足で学校へ通ったものです。

16. 徹底抗戦と偽善教育

戦時中のことを考えると外地で始まった戦争ですが、負けてきて内地での戦争にな

ると生活は悲惨そのものです。広島と長崎に原爆が落とされて、それでも軍部は徹底抗戦を主張。

昭和天皇の決断で終戦になったのですが、それでも政府は不正直で、降参と言わないで終戦。退却は転進。全滅は玉砕です。こういう言い換えは偽善。国民への意識のすりかえ教育と思いませんか？

17. 敗戦の受け止め方 贖罪(しょくざい)

敗戦の詔勅(しょうちよく)を町内の連絡で家族5人(兄は志願兵で当時は不在)そろって、自宅のラジオで聞きました。私は戦争が済んだなら、チョットぐらい物を欲しがっても良いでしょうね、と父に話しかけたらこっぴどく叱られたのです。

「戦争中でも欲しがりませんでしたじゃないか。戦争が終わったら今まで以上に欲しがったらダメじゃないか。日本の戦争でどれだけ外国の人に迷惑を掛けたか思ってみろ。山にも海の底にも外国の人をいっぱい死なせている。一生かかってお詫びをしなければどうする。」

本当にそのとおりで、心底から一生分の悲観をしました。

18. 初登校 女の奴隷

学校から登校伝令が来て通学電車に乗ったら、満員の女学生がやかましく喋っていました。「占領軍が来たらどうする？」「お母さんと山に隠れる。」

何をバカな、と思ったのです。

占領軍が来たら、女奴隷を米軍は天皇陛下に要求する。ピラミッドの昔から、常識でしょう？ 女がみな山に隠れたら天皇陛下が困られる。私は「女です」と名乗り出て、天皇陛下のために奴隷になるぞ、と決心しました。

19. 校長訓辞

その日、その気持ちで、校長の訓示を初めて、一生懸命に真剣に聞いたのです。

「今までは国の方針に従えばよかった。これからは百論百出。善悪が分からなくなる。これからは、自分で考え、自分で正しい道を見つけて生きて行きなさい。」

という内容でした。初めて聞く校長訓示。一人で考えて生きる……。大丸百貨店で見た中国少女の怨念がヒシヒシと蘇りました。

20. 唾棄(だき)すべき教師と思った

戦時中には、学校の先生にも召集令状が届きました。激励壮行会では壇上に立たれた先生が勇ましく、楠木正成か、あるいは連隊長かのような勇壮な挨拶

「〇〇一人が活着ている限りは日本の国を守ってみせる」

なんて、大言壮語を言って、出征されました。階級の低い“赤ベタ”だろうに、よくも偉

そんなことを言うなあ、と冷やかに見送ったその先生が、肩を落として復員。何の弁明もなく、こそこそと教壇に立たれます。「戦運我に利あらずや、済まなんだ、日本のために勉強に戻ろう」とか、何か一言なぜ“けじめ”の挨拶を言われぬのか。その共感を一と言、ほしかったのです。

教科書の墨塗を、なんの弁解も覚悟も訓示しないで「ハイ、何ページ、何行めから何行めまで墨で塗って」。なぜ一と言が無いのかと、本気で憤慨しました。

21. 敗戦の心準備がなかった教育界

子ども心にも思ったのは、復員してきた先生も気まずかっただろうに、昨日までと真反対のことを教える先生も生徒からの信頼感を損ねるだろうからと、京都市内全部の先生を、隣の学校と総入れ替えの転勤を、なぜ文部省は指示を出さないのかと、不審に思ったものです。

22. 敗戦で豹変した学校教育

戦時中は、命令には絶対服従でした。それなのに手のひらを返したような軍国教育からの豹変。先生方には生徒に対する良心は無いのか。学校教育は知識だけで良いのか。子どもの人格教育はしないのか。裏切られた気持ちでした。学校は尊敬する学ぶべき場ではない。1人で考え、正しい生き方をしたい。学校は私の居場所ではないと、思いました。

23. 退学を決心

二学期が終わって、1人で校長室に出向いて、退学を申し出ました。尋ねられて働いて家族を養いますと言ったので、新年度から育英資金を支給するからと慰留されました。女の子は女学校ぐらい卒業しないと一生にかかわると言われ、家にまで来られて、しつこく説得されました。腰抜けの先生と時間を一緒にするのはイヤ、と1人で考えたのですが、義務教育の年限が不足でもあったので、負けました。三学期までは通学して、義務教育を終えました。

父親の知人や、育英資金や、他人の援助を仰いで学校に行くのは「潔くない、イサギワルイ」と言いましたら、父親は「良し」と言ってくれました。母は明治生まれですが、女学校を出ていたので、夜中に泣いていたそうです。女々しいのはイヤでした。

この3学期は勉強にも頑張ったので、英語の点が上がっていました。この時の英語は身につけて、ずっと後に外国人と道で出くわした時に、英語で尋ねられたのに、即座に単語一つで返事ができ、役立った冷や汗ものの思い出があります。

3学期は通学して、義務教育の年限を終わった4月から、帝国銀行に就職しました。先輩職員を立てる職場の風習を知らなかったので、礼儀に欠け、生意気だと結構いじめにあいまして、鍛えられました。

今も1人で考えて進路を決めています。身の回りの平和を守る、認知症になっても平和に暮らせる社会をつくる活動をしています。

24. 戦時中の密かな楽しみ

戦争で失ったもの、国家・国民の生命財産。

敗戦で得たもの、長寿・都市整備。昭和 22 年には人生 50 年に終止符が打たれ、人類の理想「長寿」を日本は得ました。

学業の代わりにモールス信号や、手旗信号を雑誌で覚えて、密かな楽しみとしていました。

25. 戦争は嫉妬・憎悪の極致 世界平和は？

今、思うこと。戦争は殺戮(さつりく)。利己主義と嫉妬・憎悪の極地。だが本能的なもので避けがたい。制御がしがたいため世界中で絶えないのです。どうしたら世界は平和になれるのでしょうか。

26. 平和のための勇気

皆さんに平和を守って、とは言いにくいのですよ。平和は誰かの犠牲が必要だからです。犠牲とは十字架に磔(はりつけ)になって殺されたキリストとか、暗殺されたマハトマ・ガンジーの後継となることと一緒ぐらいの覚悟で、本当の平和でない現在の社会の中から声をあげていくこと、だと思っているからです。

今、国を挙げて戦争に向かっている気配ではありませんか？ 世界中で、アメリカと北朝鮮の関係が危ぶまれていますね。日本の運命は、どうなるのでしょうか。平和憲法と言われながら、軍備が進んでいます。これを進めると、戦争に入る道が待っています。選挙がとても大事になります。大多数の国会議員の意見、多数決で物事は決められます。選挙権が無い皆さんも、考えてみてください。

私の希望は、絶対平和です。殺されても、平和が第一と言い続けます。私が願うのは、国全体がキリストのように殺されても説を曲げない覚悟で、世界に平和を訴える国になることです。誰も賛成しなくても、私は1人でそのような理想を持って、生きていきたいのです。でも黙って何もしないでいては独りよがりですね。

皆さんは、自分の力で将来どういう日本の国が良いか、考える事ができる人になってください。そうして平和を守る決心を出来る人になってください。一生忘れずに生きる 世界平和は身の回りから 自分にできることから 私はそれを目標に生きてきたつもりです。現在私は、認知症で虐待とかが起きないよう、病気になっても一緒に明るく暮らせる社会になるように願って、毎日活動をしています。

在日の韓国系の高齢者が認知症になられてデイサービスを利用されているので、

お見舞いに毎月3回訪問して、植民地時代に受けた恨み言を、毎回聞く役をしています。何回も言うのは、言ったことをすぐに忘れる認知症特有の症状なんですね。認知症は物忘れの病気と言われていますが、子どもの頃の記憶は克明に覚えておられます。正直言うと罪滅ぼしと自分に言い聞かせています。

日本は朝鮮李王朝のあと、朝鮮を併合して、いっぱい努力もしたけれど、怨みも受けています。観光に行った日本人が暴力的横柄であった事実もありますから、祖先の行動を謝って、許してもらう、その努力、謝る勇気をいろんな形で示すことが大事と思っています。

原爆被害に遭った広島の人が、アメリカでその体験談を語られたときに、聴衆の中の女の子が講師に向かって、「ごめんなさい」と言ったそうです。「今は恨んではいませんよ」と返事をされたそうです。アメリカの女の子は、立派で、謝る勇気があって偉いなあと感動しました。さすがに正直な、ワシントン大統領の子孫の国なのですね。

27. 平和憲法を自分で考え、自分なりの文案を作ってみる力を

憲法を作るだなんて～、考えるだなんて～、ムリ無理～、と思わないでください。実は私もムリ無理とっていました。でも下の資料を一つ読んでみると、次、次、読まない事には理解ができません。今はとても便利な世の中で、小学校でパソコンを習いますね。手元に何も資料が無くても、パソコンで検索をすれば、何でも資料が出てきます。中学2年で退学した私でさえも、とうとう憲法の資料を一つ読んだら、疑問が湧いてきて、自分なりの納得できる理想の私案を作ってみましたよ。

中学3年生で、卒業論文を書くとしたら、ぜひ自分なりの憲法改正案、理想の憲法を書いてみてください。

同年代、という共通意識を以って、皆さんとお話できたと思っています。実際は皆さんとは70も歳が離れていますけれどね。皆さんの何かの役にたちましたら、嬉しいです。

世界に恥ずかしくない日本の国にしてください。お願いします。

参考資料 8点

- ① 明治に出来た帝国憲法
- ② 昭和16年の開戦の詔勅
- ③ 昭和20年の敗戦の詔勅
- ④ 昭和21年の人間宣言の詔書
- ⑤ 昭和憲法
- ⑥ 皇室典範
- ⑦ 自民党 憲法改正草案(平成24年)
- ⑧ 川本兼著(明石書店発行『Q&A「新」平和憲法—平和を権利として憲法にうたおう

—』)

※地元の宇治中学校から全校道徳の時間に招かれて、私の戦争体験を話しました。生徒感想文を読ませて頂き驚いたのは、私の話の要点を的確につかんで、自分の意見を立派に表明されていることでした。現代の中学校の教育の賜物だと感じました。その中で特に私が責任感を感じさせられた一篇が、

「初めて聞くナマの話だった、他の地域でもぜひ話してほしい」という要望でした。何度もこの筆跡を見つめ読み直して、今このように、少しく追記、文字化いたしました。何かの参考になりましたら、幸いです。

2017年8月15日

2017年6月27日、宇治市宇治中学校全校道徳の時間での
初めての発表内容に加筆

〒611-0031 京都府宇治市広野町一里山 15-10 高林實結樹

(1931年生)